

緑のまぎば

(1968, No.1)
No. 2

小金井緑町教会
小金井市緑町四丁目16-33
(電話。四三三二七九六)
編集 山本圭一
発行 山本圭一

教 説

み国がきますように

(マタイ福音書21-6)

山 本 圭 一

I

多くの人々が期待する指導者の様形
—このような事件はいつの時代でも怠
機と呼び起す。ハステスマのヨハネが
固守へロデの悪だくみによって、死海
の東側マケラヌ城の牢に閉じ込められ
たことは、メシヤ(救主)を待望する
ユダヤの民衆に、歴史のかゆりや暗黒
を予感させる不吉な出来事であったに
違いない。惨死の直前、石の獄の中か
ら、ただ一つ許された自由を用い弟子
をつまわして言わせた言葉がある。

「ヨミたるべきかたはあなごの
すか、それとも、はかにだれかを持っ
べきでしょうか。」(マタイ福音書3)

獄中でヨハネの胸に行きさしてした
ものは、彼個人の死の予感以上のもの
であった。ヨミたるべきかたは、あの
メシヤか誰なのか。この切実な問いに
期待・裏返せば、彼の属するユダヤの
運命が虚無と暗黒の中に放置されよう
としていた。耐え難いことであつた。

わたしたちらの生活にも「獄中で、
you passion」と言わなければならぬ
ような時がある。事態は少しも好転せ
ず、行きすまりの中に放置されて、こ
のままにしておけばやがて破滅に終る

ように思われる時である。これは、わ
れわれにとつて何を意味しているのだ
ろうか。

II

神の戒めを破り、樂園を追放された
アダムとエバの子孫たちは、やがて天
にまで達するバベルの塔を造ろうと試
みた(創世記11章1-9)。しかし、
「互に言葉が通じないようになつて、
全地の言葉が乱れる結果となり、民は
方々に散らされたままに放置された。
旧約の有名なバベルの塔の物語りは、
個人が罪を發展して集団的な罪となつ
たことを示す、神との本来の交わりを
失つた人間の罪の結果が、互の交わり
を失つた悲惨な状態を招いた、創世記
の記者はそこに神の審判を見たのであ
る。神は、神に対して罪を犯した者を
天から雷をもつて裁き給わない、むし
ろ、罪人自身が悲惨に歩むのをそのま
ま放置し、互の交わりが失われ、孤立
と不安の中に過ぎゆくまゝに見のなき
れた。

恐ろしい破局は、人が罪に行きつく
ところに現れた。パウロはロマノ章24
に「神は、彼らな心の欲情にかられ、
汚すままに任せられた」と述べている

III

か、これこそ現実の人間が不安と虚無
のうちにあることの秘義である。
神の国は、このような状態のうちに
求めることはできない、愛と信頼はす
べて失われたかに思われた、しかし、
神の国はこのようなところに到来しよ
うとしていると告げられたならば、わ
れわれはただ驚き、当惑するだけであ
る。せいぜいわれわれは次のように考
えるよりほかはない。

「われわれ自身の生きている時代の性
格を正しく評価することは、極めて困
難なことである。この地球上のいつさ
いの生物を全滅させ永久に住めないも
のにしてしまふ瀬戸際に、今いるのか
もしれない、それとも、この地球上を
永続的な平和と社会正義の状態におく
転期にあるのかもわからない。ただわれ
われはそれを見定めることができない
。しかし、イエスは答えられた。

「盲人は見え、足なえは歩き、らい病
人はききよまり、耳しいは聞き、死人は
生きかえり、貪しい人々は福音を聞く
されている。神の支配は、主イエスと
共にこれらの最も暗い人々の世界の中
に、すでに現われたと告げられる。行
きすまりは破られ、転機は主イエスと
共に来たたと告げられる。そして、「身を
起し頭をもたげなさい、あなたの救が
近づいているのだから。」(ルカ21章28
とうなみされる。主が「み国がきます
ように」と祈り給う所で、わたしたち
も「み国がきますように」と祈ること
を許されている。明日への不屈な歩み
は、ここから始るのである。